

ROV(遠隔水中ロボット)で藻場調査を実施しました。

○山口県では漁業生産の増大を目的に、魚礁や石材等を漁場に投入する漁場整備を継続的に行っています。

○近年、新たな取り組みとして、漁港水域を増殖場として有効に活用しようという動きがあることから、このたび水産研究センターが仙崎漁港内において、ROVを用いた藻場・海底調査を実施したので、ご紹介します。



ROV投入



沖防波堤上からROVを遠隔操作



モニターで海底の状況を確認



海底に生えているアマモ

○今回の調査で、海底に生息しているアマモやナマコ、ハゼなどの海洋生物や底質の状況を確認することができました。

今後、この調査結果が漁場整備の計画や実施に反映されることとなります。
(企画情報室)